

公益社団法人企業情報化協会・2021年度社員総会
【特別講演会】開催のご案内

『SDGs とデジタル社会の関わりについて
～カーボンニュートラル実現とIT の役割～』

日 時：

2021年6月18日（金）16：00～16：50

会 場：

オンライン・ライブ配信（参加費無料・事前登録制）

【講師】

株式会社日本総合研究所 理事 足達 英一郎 氏

※研究・専門分野

企業の社会的責任の観点からの産業調査、企業評価

※注力テーマ

ESG 投資、サステナブルファイナンス、ステークホルダー資本主義

※経歴

1986年一橋大学経済学部卒業後、1990年株式会社日本総合研究所入社。経営戦略研究部、技術研究部を経て、現職。ISO26000規格化作業部会日本国エキスパート（2005年～2009年）、ISO 32210規格化作業部会日本国エキスパート（2019年～）。三菱商事サステナビリティアドバイザーコミッティーメンバー、荏原製作所サステナビリティ委員会アドバイザー、金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議」メンバー。

※書籍

行職員のための 地域金融×SDGs 入門-(監修) 2020年9月20日/経済法令研究会

ビジネスパーソンのための SDGs の教科書-(共著) 2018年3月27日/日経BP

葛藤するコーポレートガバナンス改革-(共編著) 2017年10月31日/金融財政事情研究会

投資家と企業のための ESG 読本-(共著) 2016年11月15日/日経BP 他多数。



【講演要旨】

IT (Information Technology) が社会と地球の持続可能性を確保していくために、有用な役割を果たし得ることは言を俟たない。現下の新型コロナウイルス感染症対策として、リモートワーク促進が掲げられているが、IT の存在抜きにはその実現は図れない。マスクの在庫状況をスマートフォンで確認できるアプリを開発し、パニックを回避した台湾の事例も有名になった。人為的な温室効果ガス排出により気候変動が進展し、経済活動や人々の暮らしや健康にも脅威が懸念される気候危機への対策としても IT には大きな期待が集まる。GPS 普及で地図アプリにより交通渋滞が減らせる、データ活用により物流効率化が一層進みエネルギー節約に繋がる等がその具体例だ。ただ、スマートフォンなど IT 機器の世界的な普及を背景に、人類の生み出すデータ量は急速に拡大している側面もある。仮に、データ処理量にほぼ比例して消費電力が増えると仮定すると、2050年には2016年の約4,300倍の消費電力が必要になるという試算結果もある（この試算には今後の技術革新による省エネ効果は盛り込まれていない）。更に足元では、気候危機への対策強化が世界の大きなうねりとなっている。我が国においても、2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」が宣言された。2021年4月には「2030年度の削減目標について、2013年度から46パーセント削減することとし、さらに、50パーセントの高みに向けて、挑戦を続けていく」方針が示された。国際エネルギー機関（IEA）は化石燃料への新規投資をすぐに停止、35年までにガソリン車の新車販売を止め、50年にはエネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合を約7割に引き上げるシナリオを提示している。IT は「2050年カーボンニュートラル」に向けて、どんな可能性と課題を有するのか、開発側とユーザー側の双方の視点から考察する。